



サッカー・アジアカップにちなんで、会津のアカベコにユニフォームをペイントした「サカベコ」。福島県の仮設住宅のおばあちゃんも絵付けに参加。戦争から逃れてきた、イラクやシリア難民の子どもたちも参加し、180 頭余りを、福島駅を初めイベント会場で展示して大人気でした。

NEWS

イラク戦争から 12 年～希望はどこにあるのか 佐藤真紀 (JIM-NET 事務局長)	P.1
JIM-NET シリア難民支援プロジェクト報告 福田直美・内海旬子 (担当スタッフ)	P.4
ムスタファ&アブ・サイド来日 「世代を超えて戦争を語る」ツアー	P.5
「いのちの花」朗読と音楽のつどい& ギャラリー日比谷展示会	P.6
2015 チョコ募金が終了	
ご協力ありがとうございました	P.7
鎌田代表のつぶやき	P.8
JIM-NET オリジナル	
ポストカードのご紹介	P.8

イラク戦争から 12 年～希望はどこにあるのか

JIM-NET 事務局長 佐藤真紀の現地レポート

◆「イスラム国」に翻弄される人々

この一年間、JIM-NET が支援しているクルド自治政府内のアルビルにあるナナカーリー病院やドホークの JIN 病院には、「イスラム国」(以下 IS) の攻撃から避難してきたがんの子どもたちもたくさんいる。着の身着のままで逃げてきた彼らが、貧困と闘い、病院に通い、がんの治療を続けることがいかに大変かということを思い知らされた一年でもあった。

チョコ募金で芥子の赤い花の絵を描いてくれたハニーンちゃん(7歳・写真)は、ファルージャからキルクークに避難して、病院にくるのも大変になり、命が尽きた。アハマド君(11歳)は、サラハディーンから避難したが、再生不良性貧血で骨髄移植が必要といわれ、お金をかけ集めインドで手術を受けることが決まった。しかし、IS 支配地域の出身者には、パスポートを発給してもらえず、バグダッド政府と交渉しているうちに命が尽きてしまった。

一方、クルドのがんの子どもたちは、親が兵士として前線に向かわされるケースも増えており、家庭内に不安が漂う。

そんな子どもたちを JIM-NET はどのように支援していくのか。ファルージャから避難してきたアイド君を紹介する。

昨年の暮れ。ファルージャ出身のアイド君(15歳)の親族から連絡があった。インドで治療を受けさせたいという。診断書を井下医師に診てもらおう。「予後が悪く、再発したら助かる可能性はなく、放射線治療や、麻薬を使った痛みの緩和くらいしかないでしょう」

そのことを親族に伝えた。

「わかりました。でも我々の文化には、あきらめるということではなく、神の奇跡を信じるしかないのです」という答え。

その後アイド君は、親戚や、隣人、モスクの支援を受けてインドに治療に行った。

2月の終わりのこと。アイド君は35日間インドで治療を受け、無事にバグダッドに戻ってきた。しかし、バグダッドには薬がない。クルド自治区のアルビルで治療を受けたいというのだ。



ファルージャから避難してきたハニーンは、治療途中で亡くなった。

アルビルの医師に相談すると、薬さえ病院にあれば、治療は無料だという。しかし、Topotican という薬が病院にはない。かかりつけの薬局にいったら相談したところ、JIM-NET がお金をはらえば、トルコで購入してきてくれるということになった。アイド君と母親は、バグダッドからの交通費や宿泊費は自前でアルビルにやってくるようになった。

2月28日、病院のロビーには、アイド親子が私たちを待っていた。2012年の夏に、ファルージャで出会ったときとは違い、アイドはすっかり痩せていた。親子は、ホテルに一泊し、お金が尽きると、ファルージャから避難している知り合いの家に泊まったが、毛布もなかったという。あと、どれくらい生きられるかわからないのに、QOL（クオリティオブ・ライフ）もあったものじゃない。

バスラのイブラヒム、バグダッドのアブ・サイードが、「JIM-NET の事務所に泊めてあげたらどうだ。あのかあちゃんは今までもよく知っているから、信頼していい。父親もいなくて本当にかわいそうなんだ。地下の物置になっている部屋があるじゃないか。お母さんに料理を作ってもらえばいいし、掃除してもらえばいい」「いい考えだと思うよ。でも、クルド人の大家は、嫌がるだろう。ファルージャのスナ派アラブ人は、ここクルドでは、まるで IS の支持者だと思われてるし」

昨年6月に、ISの攻撃から避難してきたキリスト教徒を事務所に泊めたことがあったが、この時は、大家が血相を変えて、「アラブ人を泊めるならお前たちも出て行ってもらう」と怒鳴られた。クルドの兵隊は IS と闘っており、犠牲者もたくさん出ている。TV では毎日、兵士をたたえるニュースやコマーシャルが流れている。もともとクルドとアラブの民族間の歴史的な対立があり、微妙な差別感情が出始めている。

そこで、イブラヒムが早速大家に電話をする。大家はクルド人だが、かつてイラク軍の兵役につき、イラン・イラク戦争時にはバスラに従軍していたので、イブラヒムとは仲がいい。イブラヒムの妻がクルド人ということもあるのだろうか。

意外にも大家は、「困っている人を助けるのは、私にとっても喜びだ」と言ってくれた。

事務所の地下の倉庫が空いていたので、アイド君と母親を泊めることになった。早速、掃除をはじめ、事務所は見違えるようにきれいになった。

買い物に行き、アイド君の母親が、プリヤーニという（チキンチャーハン）家庭料理を作ってくれる。いままで、あまり口を利かなかったアイド君も嬉しそうで、母親の料理をみんなと一緒に食べた。

5日間の闘病生活と私たちの共同生活が始まった。

アイド君は2011年、がんになった。ユーイング肉腫である。自転車で転んでから腰の痛みが取れず、がんだと診断された。少し前に父が病気で亡くなった。インドで手術をした後、バグダッドのセントラル病院での化学療法が始まった。しばらくはよくなったと思えたが、2013年ごろから、アイド君の容態は悪くなり、歩けないほどだったという。

「市場で爆発があり、体がバラバラになって死んでいる人を見たんだ」

それ以来アイド君は、すっかり元気がなくなったという。

2013年12月ごろの話だ。イスラム国がファルージャにやってきた。アイド君の母親は、

「最初彼らは、ファルージャを解放すると言いました」と言う。その当時、ファルージャでは、政権によるスナ派の迫害が続いていた。

「多くの人がその言葉を信じました。しかし、たばこもだめ、吸っているのが見つかったら、たばこを取り上げられ唇に押し付けられた人もいました。女性は髪も隠さなければ許されない。小さな子どもがサダム・フセインをたたえる歌を歌ったというので、その子の叔父が捕まり、100回のむち打ちになったということもありました」

それでも、アイド君がファルージャとバグダッドの病院を行き来するときは、ISのチェックポイントに「がんて治療が必要だ」というと通してもらえた。だが、チェックポイントがたくさんできていて、9時間もかかった。

その頃、マリキ政権は3月の国政選挙に備え、スニ派の議員をテロに加担したとして逮捕し始めた。ファルージャでは平和的なデモが続いていたが、1月になると、デモの中に IS の戦闘員

がいるとして、総攻撃をかけたのだ。アイド君と家族もバグダッドに避難し、アパートを借りた。アッダミーアという貧困地区で、家賃100ドル。3部屋に3家族12人が暮らすことになった。ほかの家族



アイド君の背中の中を見せてもらう。インドで受けた手術は、予想以上に大手術だった。

権下で、武器を売買したとの疑いをかけられ逮捕されて収監されていたり、生活はぎりぎりだ。

ある日、アイト君が病院に行こうとしたところ、今度はイラク政府のチェックポイントで呼び止められた。アイトは、足が虫に刺されたのか、腫れてきたので、包帯を巻いていた。

「お前は、ISの戦闘員だろう。だから、怪我をしているんだな」と逮捕されそうになった。

アイト君と母親は恐怖に震え、泣いて事情を話し、ようやく解放された。

ISに捕まることは恐怖だが、ISの戦闘員としてイラク警察に捕まっても、生きて帰ってこられるかわからない。

イラク軍の攻撃も落ち着き、久しぶりにファルージャに戻ると、アイト君の家は、無残にも空爆で破壊されていた。ISの兵士が、地雷を埋めているのが見えたという。闘病中のアイト君が楽しみにしていたプレイステーションも壊されてしまった。

ファルージャは、米軍の占領時の2004年には、町が封鎖され激しい攻撃を受けた。白リン弾やマスタードガス、劣化ウラン弾の使用も疑われており、がんの子どもたちが増えている。

「USとIS、どちらが怖い？」とアイト君に聞いてみた。

「ISの方が怖い」。ある時、市場を歩いていると、ISの戦闘員に呼び止められた。アイト君の靴にイギリスの国旗がついているというのだ。『それを外さないと殺すぞ』と脅された。『取ります』と言えば、許してもらえたが、怖かった。

3月2日

イラク軍はティクリートの解放をめざし、総攻撃をかけた。約3万人の軍隊がティクリートを包囲したために、間もなく5日間の治療を終えてバグダッドに戻る予定だったアイト親子は、幹線道路を絶たれ帰れなくなってしまった。

「無理して帰ることはない」と言ったが、「4か月の赤ちゃんがいるから」というのだ。嫁いだ娘の赤ちゃんだという。

まだ赤ちゃんが生まれる前に、娘の夫はチェックポイントでつかまり、行方不明になっていた。寄進省のカメラマンとして働いていた夫はカメラを持っていたので、ISから尋問を受けた。モスク関係の写真を撮っていたので許してもらえと思ったが、身分証明書には公務員と記されていたので、拉致されたのだ。すでに、殺されているかもしれないという。

アイト君の母親が帰らないと、ミルクやおむつ代も払えないというのだ。一家の収入は、母親があちこちからかき集めるお金である。

何とか支援してくれる人が見つかり、アイト親子は、アルビル-バグダッド間のフライトチケットを手に入れることが

できて、バグダッドに帰っていった。別れ際に、母親が乞うた。

「半年後に、アイトは、またインドで治療を受けなければならないのです。全額ではなく、少しでもいいから支援してもらえないでしょうか」

私はうなずいた。

その後、親戚のおじさんから連絡があり、無事にバグダッドに着いたという。「今までは、治療に行くと、元気がなく、気が滅入って帰ってくるのに、今回は、精神的にも元気そうでした。面倒を見てくれてありがとう」

生きてほしい。半年後、アイト君が、元気に微笑んでくれることを願う。

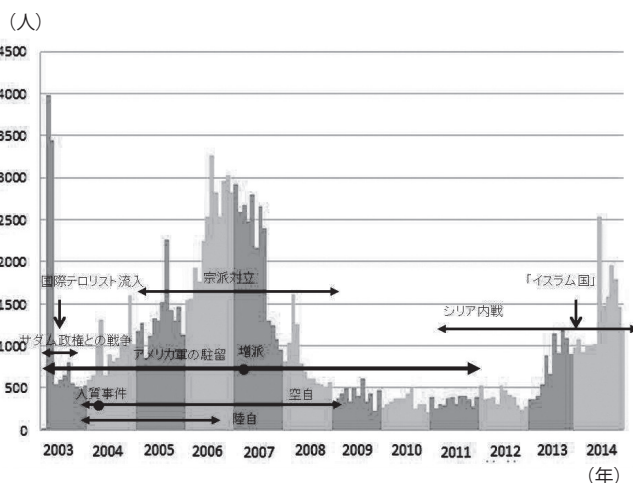


サカベコを作ってくれたアイト君。うれしそうだった。

【イラク戦争の12年】

アメリカが始めたイラク戦争で、イラクはテロの温床と化してしまった。ファルージャは、2008年頃はアル・カイダに支配されていたが、住民たちが立ち上げた覚醒評議会が、米軍と協力し、アル・カイダの追い出しに成功した。

しかし、シリアで内戦がおこると、国際社会はアサド政権の崩壊が平和への道だと決めつけて、反体制派を支援したために、反体制派支配地から、アル・カイダを支援するテロリストたちが入り込んだ。イラクから追い出されたアル・カイダ系テロリストたちと結びつき「イスラム国」が結成された。※グラフは、イラクボディカウントというNGOがまとめているイラク民間人の死者数。



JIM-NET シリア難民支援プロジェクト 新スタッフからの報告

◆こんにちは。ヨルダン事務所の福田直美です。

2007年からパレスチナ、エジプト、ヨルダンにてNGOおよび国連機関での勤務を経て、2014年11月よりJIM-NETヨルダン事業担当としてアンマンに駐在しています。

現在ヨルダンにいるシリア難民の中には、内戦に巻き込まれて負傷し、手や足を失った人、半身麻痺になった人も多くいます。子どもや女性も少なくありません。JIM-NETは現在、治療やリハビリテーションが必要なシリア難民が病院などに通う事ができるよう、バスを運行しています。また、難民キャンプの医療施設におけるリハビリテーションや、理学療法士の家庭訪問によるリハビリテーションを、現地NGOを通して行っています。

タハ君（8歳）はクラスター爆弾により全身に傷を負いました。片方の目は義眼となり、右手は麻痺した状態で、歩行障害も残ります。お父さんはタハ君が負傷した時に亡くなりました。まだ数回の手術が必要ですが、「学校に行くのが好き」と言います。



アフマド君（14歳）は、銃弾を背中に受けた影響で下半身が麻痺し、車いすでの生活になりました。リハビリテーションを繰り返し、今では一人で車いすに乗って外出できるようになりました。



彼らも含め、私たちの出会うシリア難民はみな、「シリアに戻りたい」「平和な生活に戻りたい」と言います。

負傷した難民が治療やリハビリテーションが受けられない事で、状態が悪化してしまう場合もあります。JIM-NETは、一人ひとりの負傷者、障害者に寄り添い、彼らが今必要な治療を受けられるよう支援を継続するとともに、これ以上、罪のない子どもたちの命や自由、夢や希望が失われる事がないよう、「どうしたら戦争を止められるのか」を皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。応援どうぞよろしくお願いいたします（ふくだ・なおみ）。



◆はじめまして。内海旬子と申します。

海外事業担当としてJIM-NETに入ったのは1月ですが、既に昨年12月にヨルダンに行って、これから拡張するシリア難民支援事業の準備をしてきました。

ヨルダンでは、戦争の被害で手足をなくしたり、体が麻痺した難民の人たちに会いました。戦争に関する国際人道法では「市民は守られる」となっていますが、戦いが起こるとそれが守られず犠牲になる人たちが多くいます。しかし私たちはその現実に対して無力ではありません。たとえば対地雷禁止条約には世界の5分の4の国が、クラスター爆弾禁止条約は世界の約半数の国が加盟して、市民の被害をなくそうとしています。これらの条約によって、両兵器は「使ってはいけないもの」という認識が広がり、犠牲者数は減少しました。残念ながらシリアでは地雷もクラスター爆弾も使用され

ていますが、その行為は「いかなる理由があろうとも許されない」と世界から非難されており、シリアが条約に入るよう求める努力は引き続き行われています。

障害の有無に関わらず人権と自由が保障される社会を作るために、今、必要が満たされていない人たちの支援すると同時に、なんとか紛争を止めることができないかとJIM-NETは考えています。ISの影響と難民の増加で非常に厳しい状況ですが、イラク、ヨルダンで共にチャレンジする人たちがいることがJIM-NETの魅力です。初めての中東、アラビア語を勉強しながら彼らと一緒にがんばります。どうぞよろしくお願いいたします（うつみ・じゅんこ）。



ムスタファ&アブ・サイード来日「世代を超えて戦争を語る」ツアー

JIM-NET は 2014 年に設立から 10 周年を迎えました。その記念として 10-11 月、イラクから 2 人のゲストを日本に招聘し、「世代を超えて戦争を語る」ツアーを開催しました。

◆ムスタファ・イマッド (20 歳)

バグダッド出身。8 歳の時、イラク戦争を体験。2003 年 4 月、疎開先で米軍のヘリコプターの攻撃をうけ、一緒にいた叔父は亡くなり、本人は足に大けがを負いました。切断するしかないと言われましたが、ジャーナリストの土井敏邦氏が取材し、ニュース・ステーションで取り上げられると、反響を呼び募金が集まりヨルダンで手術を受けることができました。手術は 12 回に及び、切断を免れ自力歩行が可能になりました。現在はまだ高校に在学中で「イラクで大学に進学するには多額のお金がかかり、賄賂も横行しているが、いつかは進学して航空もしくは電気関係のエンジニアになりたい」と言っています。

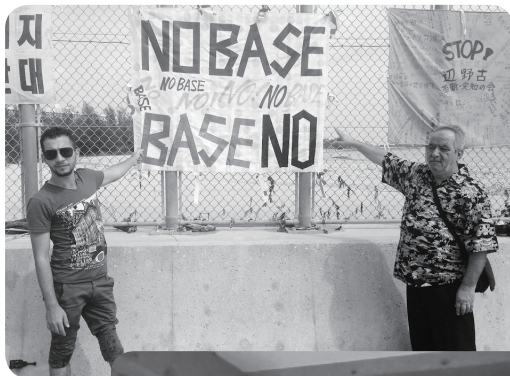
◆アブ・サイード (61 歳)

バグダッド出身のパレスチナ人。一族はハイファ出身で 1948 年にイラクに逃れ、そのあとに生まれたため故郷を見ることがありません。若いころは、パレスチナ抵抗運動に参加したことも。バグダッドのパレスチナ難民はサダム・フセイン時代には他のイラク人と同じような生活ができましたが、イラク戦争後の迫害が激しく、多くは難民となり、イラクを去っていききました。彼はバグダッドに残り、2004 年に難民キャンプで通訳をする中で JIM-NET と出会い、治安の悪い中で医療品を運ぶなどの協力を始めました。現在はスタッフとして小児がんの患者の面倒を見ており、バグダッドでは 2 か所の病院に薬や医療機器の支援を手助けしています。

2 人は 10 月 23 日に来日し、以下の日程でツアーを行いました。

25 日 (土) Talk&Music サダコがつなぐ広島とイラク (代官山)
26 日 (日) ~ 28 日 (火) 沖縄 (南部戦跡、辺野古、読谷村訪問など)
30 日 (木) トークイベント (池袋)
31 日 (金) 交流会 (清瀬)
11 月 2 日 (日) ~ 4 日 (火) 福島 (被災地、JIM-NET 支援団体、会津鶴ヶ城訪問など)
5 日 (水) ~ 6 日 (木) 長崎 (童話館、原爆被爆者追悼平和記念館、被爆者の小峰秀孝さん訪問など)
8 日 (土) JIM-NET10 周年 & 2015 チョコ募金キックオフ
会場: 立教大学 12 号館 (池袋)

私は沖縄ツアーに同行しましたが、ムスタファさんが「平和の礎」で敵国であった米国兵士の名前を刻んでいることに不思議がり、説明を聞いた後「兵士も戦争がなければ普通の人だということだね」と納得したこと、アブ・サイードさんが辺野古のキャンプ・シュワブゲート前で抗議する人々について「彼らは手にバナーを持っていたが、銃は持っていない。それは平和的な行動だった」と語ったことに深く感銘を受けました。2 人の日本滞在記は近々報告書にまとめますので、ご期待ください。(芦澤礼子: 沖縄ツアーコーディネーター)



左から会津鶴ヶ城、長崎の被爆者小峰秀孝さん訪問、沖縄辺野古浜、「サダコがつなぐ広島とイラク」にて佐々木祐滋さん (左端) 率いる「輪音」の皆さんと。



「いのちの花」

朗読と音楽のつどい&ギャラリー日比谷展示会

崔 麻里 (JIM-NET イベント担当)

~

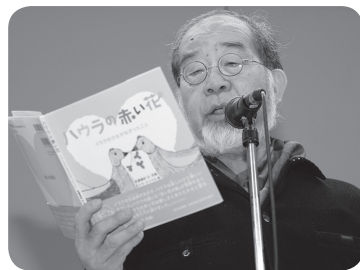
◆『いのちの花』～イラク、福島、シリアをつなぐ朗読と音楽のつどい (2015年1月18日@千駄ヶ谷区民会館)

2014年で発足10周年を迎え、「JIM-NETの存在と活動をより広く知って頂ける企画を！」と心掛けております。昨春から準備したチャリティー朗読&演奏会は、私どもの活動にご賛同下さった声優の日高のり子さん、ヴァイオリニストの川畠成道さん、アナウンサーの村上信夫さんにご出演頂くことができました。勿論、鎌田實先生 (JIM-NET 代表理事) も登場です。

日高さんは『ほうれんそうはないています』『雪とパイナップル』、村上さんは『へいわってすてきだね』『はしるってなに』、鎌田先生は『ハウラと赤い花』を朗読。そして川畠さんの演奏と出演者の方々のトークが続きました。チョコ缶に繊細な薔薇の絵を描き、12歳の命を閉じたイマーンちゃん。鎌田先生が佐藤事務局長と二つの山を超えてお墓参りに訪れた様子をお話ししました。



左上：川畠さん 右上：日高さん
左下：村上さん 右下：鎌田代表
中央：トークコーナー



★村上信夫さんから

スキーで骨折した鎌田先生は、患部を固定し、痛み止めを飲んで、会場に現れた。自分が骨を折っても、人のために骨を折ることは惜しまない人だ。

チョコ缶にバラの絵を描いたイマーンさんは、大腸がんで亡くなった。享年12。その画像を見ながら、鎌ちゃんは泣いた。会場も泣いた。砲弾の犠牲になる子もいる。衛生状態、栄養状態が行き届かない子もいる。大人が始めた戦争の犠牲になる子どもを生み出してはならない。戦争は、何一ついいことがない。

声優の日高のりさんは、鎌田先生の2冊の絵本を読んだ。タッチのみなみやトトロのサツキの声ではなく、母親の声だった。

ヴァイオリニストの川畠成道さんは、飛行機のアクシデントがあり、滑り込みセーフで会場についたが、綱渡りを微塵も感じさせない堂々の演奏だった。

ムラカミは、2冊の絵本を読んだ。平和のために、自分の出来ることをするという沖縄の子、原発から避難した場で、一人で自立することを体感した子を描いた絵本だ。子どもたちの想いを、精魂込めて読んだ。

朗読と音楽を通して、会場と一体になって、いのちに想いを馳せ、いのちの花が咲く素適な時間となった。

◆『いのちの花』 展示会 (2015年2月13日～18日@ギャラリー日比谷)

朗読会も盛会のうちに終わり、恒例のギャラリー日比谷展示会準備に取り組む筈でしたが、間もなく後藤健二さんのシリア拘束事件が起きてしまいました。佐藤事務局長へのメディア取材が後を絶たず、普段と異なる慌ただしいなかでの準備作業となりました。

『いのちの花』展示会は、イラクの子どもたちの絵画に加え、後藤さんとビジュアリストのこうづなかばさんのユニット、コード（和音）の作品『Broken Boy』（写真右）、劣化ウラン弾や地雷の模型、昨年から続けている羊ぐるぐる（フェルト）ワークショップ、事務局長が力を注いでいる「サカベコ」も180体以上が初めて集結。田村看護師による二日間限定アラブカフェではスイーツが大人気でした。ソフィアンさんのウッド演奏、マリヤムさんのアラブ書道には列ができ、「お気持ち募金」がたくさん集まりました。鎌田先生の『がんばらないトーク』、内海旬子と佐藤事務局長によるヨルダン・イラク報告会は、毎回満員で身動きできない程でした。

シリア、イラク、ヨルダン…と中東のことが報道で取り上げられた時期でもあり、寒いなか、芳名帳に記名のための長い列ができたことも大変印象に残っております。今回は、発信と交流の場としての手ごたえを感じた朗読会と展示会を開催できました。この場をお借りし、様々なご協力やボランティア参加下さった方々に心から御礼を申し上げます。

..... ギャラリー日比谷・福石薫さんのメッセージ

事務局長の佐藤真紀さんとは、佐藤さんが学生時代から参加しているグループ展の会場として、ギャラリー日比谷を毎年利用して頂いているというご縁があり、20年以上のお付き合いになります。当初は、佐藤さんご自身の描いた絵を展示していたのですが、いつからかイラクの子ども達の描いた絵を飾るようになり、そのことが佐藤さんの活動を知るきっかけとなりました。グループ展のお仲間は毎年展覧会の飾り付けにも駆けつけて下さっています。



子どもたちに絵を描かせよう、その絵をパッケージにしてチョコを作ろうという発想も、絵を描くことで喜びを感じたり、慰められたり、勇気づけられたりというご自身の経験あってこそなのだと思います。展示される子どもたちの描く絵は本当にどれも魅力的で、毎年とても楽しみにしています。多くの方が足を運んで下さり、絵の前で様々な会話が生まれている様子を毎年見て来ました。会話はまた、その方の家族や友人へと伝わっていくことでしょう。

この展覧会は、ギャラリーで働く自分にとって、絵の持つ力を改めて気付かせてくれる大切な展覧会でもあります。微力ですが、一人でも多くの方に見て頂けるようこれからも画廊主と共に応援してゆきたいと思っています。

2015 チョコ募金が終了～ご協力ありがとうございました。

芦澤礼子（JIM-NET チョコ募金担当）

2015年チョコ募金は、1月31日に終了致しました。2014年中は衆議院選挙が重なったせいかチョコ募金紹介の記事も少なく動きも遅くて、16万個分の寄付がいつ達成できるのか不安は尽きませんでした。年が明けて「AERA」に紹介記事が載ったところから弾みがつき始め、1月24日に放送されたTBSラジオの永六輔さんの番組に鎌田代表が出演したときには電話が鳴りっぱなしでした。チョコ募金を初めて知った方、毎年楽しみにされている方、結婚式や還暦祝い、退職の記念に同僚に配りたい、自分も病気だから子どもたちの苦しみ为他人ごとと思えない…温かい言葉に、何度も励まされました。特に「生徒会新聞に紹介記事を書きました」という手紙と手づくりの生徒会新聞を送ってくれた中学1年生の男の子には、これからもこの気持ちを持ち続けてほしいという思いでいっぱいです。

初めてのチョコ募金担当で、至らぬところは多々ありましたが、多くの皆様のご協力のおかげで無事終了できたことを心から感謝申し上げます。

鎌田代表のつぶやき～「憎しみの連鎖を断ち切りたい」

中東で暴れている過激派組織「イスラム国」。それに忠誠を誓うと宣言する組織は、世界 15 か国 29 グループあるといわれ、世界中にテロの脅威がはびこり始めている。

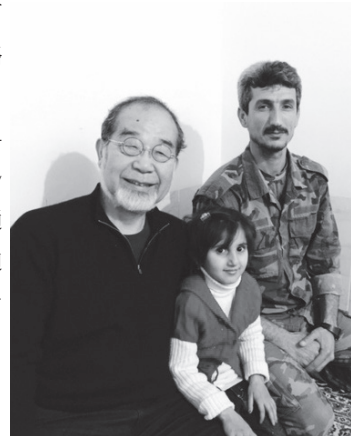
2014 年 8 月、アメリカを中心にした「有志連合」が「イスラム国」に対する空爆を開始した。最初に空爆したのはアルビル近郊だった。アルビルは JIM-NET がイラク戦争で傷ついた子どもたちを救う活動のために約 7 年前から事務所を置いているところ。昨年の夏からアルビルを中心に北イラクには「イスラム国」が制圧したモスルから逃れてきた避難民たちが押し寄せ、あちこちに難民キャンプができていた。急激にふくれあがった難民キャンプは、医療が追い付かない状態になった。

JIM-NET は難民キャンプの医療支援を行うことを決定、昨年末から今年の年始にかけて、僕たちはアルビルやドホークの難民キャンプを視察し、炊き出しを行い、毛布を配って歩いた。ヨルダンのザータリキャンプにも行った。シリアの戦火を逃れ、また「イスラム国」に追われて約 150 万人の難民がヨルダンに押し寄せている。ここでは JIM-NET は「希望の足」プロジェクトを行っている。

「イスラム国」の非道な暴力は許せない。しかし、暴力に暴力で対抗するだけでは、解決にならない。過激派組織の力をそぐには、戦闘員の供給をきちんと断ち切ることが重要なポイントとなる。「イスラム国」の戦闘員になりたがる若者は多いが、彼らを思いとどまらせるには、暴力ではない、愛の力が必要だと思う。

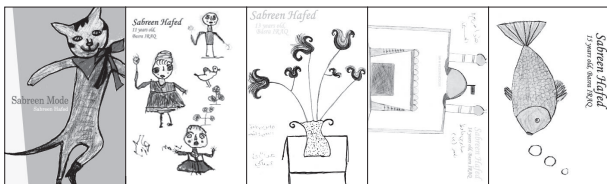
戦争によって足を切断された若者たち、逃げながら怪我をした人たちに、僕たちは義足をつくり、機能回復訓練をしてきた。いま、この混乱の中で温かい人道支援を続けることは、目の前の傷ついた人を救うだけではなく、「イスラム国」の巨大化を防ぐことにもつながると思っている。暴力には暴力を、憎しみには憎しみを、という連鎖を断ち切って、憎しみには愛を。今年 4 月と 7 月にヨルダンやイラクに入り、「イスラム国」に追われた人たちの難民キャンプで診察してくる予定です。

『「イスラム国」よ』（河出書房新社刊・本体価格 1000 円）を緊急出版しました。印税は 100% JIM-NET と JCF（日本チェルノブイリ連帯基金）を通して「イスラム国」の迫害に遭った子どもたちを助けるために使われます。ぜひ、この本を読んでください。

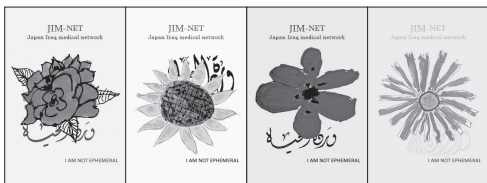


◆写真は 2014 年チョコ募金のカードに赤べこを描いてくれたイマーン・フセインちゃん（9 歳）とお父さん。JIM-NET がサポートしています。年末年始に現地に行った際に、会うことができました。白血病の治療のためインドで骨髄移植を受け、今のところ経過は順調ですが、お父さんが「イスラム国」と闘うために戦地に赴くようになり、イマーンちゃんは毎日心配でたまりません。

JIM-NET オリジナルポストカードのご紹介



サブリーンセット 5 枚 500 円



いのちの花セット 4 枚 400 円



ハウラセット 5 枚 500 円

2 月の「ギャラリー日比谷」での「いのちの花展」に合わせて、人気のサブリーンセット、ハウラセットを復刻しました。そして、新たに 2015 年チョコ募金の缶イラストデザインの「いのちの花セット」が登場！ポストカードの収益はイラクの子どもたちの医療支援に使われます。お問い合わせ・お申し込みは下記事務局まで。

【編集後記】今月はイラク戦争から 12 年、東京大空襲から 70 年、東日本大震災と福島原発事故から 4 年です。失われた多くの「いのち」に思いをさせ、「いのち」が理不尽に失われることを防ぐために何ができるか。困難の中でも JIM-NET の活動を続けていくことは、ますます重要になってきていると感じます。（あ）

JIM-NET 便り 2015 年 3 月号

発行：特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク

発行日：2015 年 3 月 26 日

〒171-0033 東京都豊島区高田 3-10-24 第二大島ビル 303

info-jim@jim-net.net TEL/FAX 03-6228-0746